



霞ヶ浦 NEWS

VOL.5 No.5

5月号 (通巻 30号)

(社)霞ヶ浦市民協会 〒300-0033 茨城県土浦市川口2-13-6

TEL 0298-21-0552 ・ 21-0660 FAX 0298-21-6209

郵便振替口座 00120-9-726025 / 名義:(社)霞ヶ浦市民協会



霞ヶ浦情報マップ作成事業

高須(玉造町)から夕暮の高浜入をのぞむ(筑波山の手前は霞ヶ浦大橋)

霞ヶ浦新八景を選ぶ

企画委員 太田 晃

「霞ヶ浦情報マップ歴史文化編」を作成するに当たり、企画委員が3回にわたって現地調査を行いました。1回目は3月20日、風雨が強く真冬のような寒さの中、美浦村から江戸崎町、東村、潮来町、佐原市を、2回目は4月17日、前回とは打って変わった良い天気の下、玉造町から麻生町、北浦大橋、潮来町の北浦側を、3回目は5月1日、夏のような日ざしの中、土浦市、霞ヶ浦町、石岡市を廻りました。私は写真を担当しているので、その視点から感じたことを書いてみます。

この踏査を行って、知っているつもりだった霞ヶ浦の全体を、把握していなかったことを思い知らされ、さらに勉強しなくてはと考えさせられました。

霞ヶ浦の新8景を選定するに当たって、写真担当の立場からの観点で選んでいくと次のようになります。まず、初日の新潮来十二橋は古い歴史があり、かつての生活が今も感じられ、このまま残しておきたい一つの景色でした。逆に北浦大橋は中央に五つのアーチのある現代的な美しい橋であり、特に白浜の少年の家から見るとさらに美しい橋です。玉造町から高浜へ

かけての筑波山の眺めは、高浜入りの筑波として大変美しく、特に5月の入日の時が最高の景色です。浮島から妙技の鼻湿原へかけての秋冬の朝日の出る光景、歴史のある歩崎観音から南方向に見える三又沖から潮来へかけての眺望、また、富士見塚古墳公園の古墳上から見る土浦入り、高浜入の眺望は、大変素晴らしいものです。高浜から石岡にかけては歴史が古く、国分寺をはじめ高瀬舟が行き来していた頃の面影がしのばれる建物や遺跡がありました。この調査をもとに霞ヶ浦に関心の持てるマップができればと思っています。

水が教えてくれること



高浜に飛来するオオハクチョウ（撮影：吉田薫）

沼澤篤（主任研究員）

「行く川の流れは絶えずして、しかも元の水にあらず。流れに浮かぶうたかたは、かつ消え、かつ結びて、久しくとどまりたるためしなし。人の世もかくのごとし」

これは、有名な「方丈記」（鴨長明）の冒頭部分です。人生と川を対比して、読む者を感動させる古来誉れ高い流麗な名文です。

このように、河川、湖沼、雨、雲、雪、霧などをふくめて、水が姿を変えたことによる様々な現象は人の心を動かし、来し方、ゆく末を考えさせます。映画「阿賀に生きる」（佐藤真監督、1992年）では、増水した「阿賀野川」の川面をあかず眺める老人たちの姿が印象的な映像として捉えられていました。水は人を老成させ、哲学者にします。

水から、先人たちは何を感じ、考え、学んだのでしょうか。手元の資料から、いくつか紹介します。

水五則（黒田如水作）

- 一、自ら活動して他を動かさしめるは水なり。
- 一、常に己の進路を求めて止まざるは水なり。
- 一、障碍に遭いてその勢力を百倍

するは水なり。

- 一、自ら潔くして他の汚れを洗い清濁併せて容るるの量あるは水なり。

- 一、洋として大海を充し、発しては蒸気となり雲となり雪に変わり霞と化し疑りては玲瓏たる鏡となり而もその性をうしなわざるは水なり。

黒田如水は豊臣秀吉の参謀役を務めた重臣。秀吉に天下を取らせた男。この水五則はもともと中国から伝わったものとも云われる。

新水五則（新潟の水辺を考える会作）

- 一、水は地球のみに大量に存在するものにして、物質として奇にして妙なり。
- 一、水は循環・運動して地球環境を創造・維持するなり。
- 一、水は生命の循環をつかさどるものなり。
- 一、水は人を害しあるいは利し、矛盾するものにして、文化・文明のもとなり。
- 一、水は人を育み、人間性を豊かにする根源なり。

「新潟の水辺を考える会」は、新潟大学工学部の大熊孝教授（河川工学）が代表を務めているボランティアの市民団体。第8回水郷水都全国会議新潟大会を主催した。

水防五訓（大熊孝作）

- 一、水防は、地域の守り、地元の仕事。
- 一、水防は、日ごろの準備と河川巡視から。
- 一、水防は、危険がつきもの、かならずつけよう命綱。
- 一、水防は、我慢が肝心、一時の辛抱、大きな成果。
- 一、水防は、減水時に破壊多発、油断大敵。

個人水防心得五訓（大熊孝作）

- 一、調べておこう、自宅のまわりの氾濫実績。
- 一、大雨きたら、まずあかりと水と食料の準備。
- 一、ハイテク自動車浸水に弱し、車での避難、要注意。
- 一、濁水の下凹凸みえず、片手にはころばぬ先の杖。
- 一、氾濫の引き際に、泥、ゴミ掃除忘れずに、後始末大変。

水質汚濁防止五訓（沼澤篤作）

- 筆者も触発されて、水を汚さない工夫をまとめてみました。
- 一、自分一人でも汚さぬ工夫。
- 一、考えよう、使った水の行く先。汚れは、拡散する前に元で回収を。
- 一、合成化学物質の使用を減らし

自然浄化力の回復を。

- 一、仲間を作ってみんなで努力。
- 一、親から子へ伝えよう、水を大切に心。

水の恩恵（「リグ・ヴェーダ」古代インド、バラモン教の根本聖典。生活の繁栄を願い、神々の神徳を讃えた歌集）

三島由起夫は、輪廻転生をテーマにした遺作「豊饒の海Ⅲ 暁の寺」の執筆過程で、仏教やヒンドゥー教を研究し、作品の中で「リグ・ヴェーダ」の一節を紹介しています。

水こそ薬なれ

水は身の病いを清め
活力もてこれを充す
まことに万病草の水なれば
諸病諸悪を癒すべし

水は不死の命に充てり
水は身の護りなり
水には癒しの霊験あり
水の威ある力をば
常住忘ることなかれ
水は心身の薬なれば

水に関することわざもたくさんあります。

「河の水は井戸の水を犯さず」中国のことわざ

（お互いに不干渉であることをよしとする態度）

「水を飲んで井戸を掘った人を忘れず」中国のことわざ

（病床の田中角栄元首相を周恩来氏が見舞った時に引用して感銘を与えた）

「水清ければ大魚なし（魚棲まず）」中国『後漢書』

（日本では、寛政の改革の厳しさを皮肉った落書「白河の水の清きに耐えかねて、もとの田沼の泥田恋しき」が有名

「ガンガー（ガンジス河）が逆流して山に向かう」インドのことわざ

（起こるはずがないことがおこる。世の中の様変わりを嘆く）

「男が川なら女は水たまり」アラブのことわざ

（下手な注釈は不用ですね）

「水の低きにつくがごとし」中国『孟子』

（物事の道理として、自然にそうなること。有徳の君に民が自然になびくこと）

「水魚の交わり」中国『蜀志』

（三国志の劉備と孔明の故事から君臣や夫婦の仲のよいことをいうたとえ）

「水は方円の器に随う」中国『韓非子』

（有徳人が状況の変化に柔軟に対応すること）

「水の恩は送られぬ」日本のことわざ

（水の恩恵ははかりしれぬものであるから、恩返しなどできないほどである）

この他にも、水に関して先人が考察した名言、名句はたくさんあると思います。みなさんも、なるほどと思われたことわざなどをメモしておいたり、水について、自分なりの考えをまとめてみてはいかがでしょうか。

引用文献

竹林征三「霞ヶ浦研究第8巻、『建設事業と環境問題』」（社）霞ヶ浦市民協会

大熊孝「川がつくった川、人がつくった川」ポプラ社

三島由起夫「豊饒の海Ⅲ暁の寺」新潮文庫

「故事名言由来ことわざ総解説」自由国民社

「世界の名言名句」旺文社



水辺で生き物を探すのは楽しい作業（タンカイ調査時）

水資源

水質
測定器

人間



セントラル科学株式会社

URL <http://www.hypermedia.or.jp/CKC>

茨城営業所／土浦市港町1-4-19ワコー第2ビル ☎0298-24-3398 FAX0298-24-6236

本社／東京都文京区本郷3-23-14ショウエイビル ☎03-3812-9186 FAX03-3814-7538

他支店／営業所 大坂・福岡・千葉・名古屋・横浜・仙台

セキスイは、暮らしの視点から環境にやさしい製品を、環境を損なわないシステムで生産し続けます。

一緒に暮らそう、セキスイと。

SEKISUI

積水化学工業株式会社

〒530-8565 大阪市北区西天満2-4-4（堂島関電ビル）

ホームページアドレス <http://www.sekisui.co.jp/>

© 積水化学は、経団連自然保護基金を通じて、アジアのさまざまな自然保護活動を支援しています。

東海道にある瓜二つの景色（2）

升 秀夫（土浦市 会員）

天智天皇、藤原鎌足の時代、霞ヶ浦は現在より広大であった。大杉神社（阿波）は、海上（うなかみ）、現在の銚子からの航路標識であり、常陸国府（石岡）への海道だったとされる。木原城跡公園に組まれた櫓の上から眺めた筑波山の角度と、現在の大杉神社から筑波山を見る角度が当時と変わらないとして、大津遷都に常陸赴任経験者が介在したとするなら、その景色の共通性に何かを感じたはずである。いや、逆に、大杉神社の宮司の推理が正しくあり、常陸那珂出身であると推理される中臣氏が、近畿に常陸を持ち込むなら、飛鳥や難波からわざわざ、遷都先に大津を選んだ理由は霞ヶ浦と共通する景色だったのではないかと想像した。

人間は故郷を移住先に求める癖がある。文化や風習を移住させることは容易だが、景色を移すことはできない。そこで、故郷に似た景色を選び、そこに新たな活路を開く者も多い。ならば、当時の大和人と常陸人らは霞ヶ浦湖畔と琵琶湖湖畔を、多に共有したにちがいないと想像したのであるが、琵琶湖湖畔は、古来、朝鮮半島からの渡来人の住処であり、霞ヶ浦湖畔も大和朝廷に從属しない民族の拠点であったようである。

天智天皇死後、長子の友皇子（弘文天皇）を擁する大津宮に対し、吉野にこもっていた、天智天皇の弟である大海人（オオアマ）皇子（天武天皇）が、672年の夏に壬申の乱を起こした。1ヵ月余の激戦で友皇子は自殺し、大海人は飛鳥浄御原宮（アスカノキヨミハラノミヤ）に即位して、律令制が確立する端緒となる。この天武天皇の皇子、舎人親王（トネリシンノウ）の孫、小倉王、貞代王らが清原姓を許され、その末裔である清原武則は、1062年に源頼義、義家親子を助けて、奥州在来民族の安倍貞任（サダトウ）を滅ぼし、功により鎮守府将軍に任ぜられ、安倍氏の旧領を併せ奥羽の雄となった。しかし、清原家衡が1083年に、清原武衡とともに兄、真衡（サネヒラ）の館を焼いたことから、源義家が陸奥守となつて着任。しかし、清原家衡はこれに従わず金沢柵（カネザワノキ）に拠って防ぎ討死した、いわゆる前九年の役、後三年の役である。

源義家の奥州討伐に附随して、霞ヶ浦湖畔には、義家（八幡太郎）伝説が多く残されている。義家が鹿島神社に参拝して

奥州に向かったが暴風により延方に流された。または、玉造町高須に流されたとする伝説。義家が霞ヶ浦に来ると舟がなかったの、家来は筏に乗り、義家は牛に乗って美浦村の牛込から、霞ヶ浦町の牛渡に渡り奥州へ向かったとある。はたして、源義家が霞ヶ浦を経由して奥州討伐に挑んだのかは不明であるが、犬吠埼ならびに九十九里の伝説に奥州に落ち延びた源義経も登場する。

1338年、南朝の北畠親房は、東国にての起死回生のため伊勢の大湊を出航したが、暴風で大半の船団を失いながら、東城の浦（現在の利根川）に漂着した。ここで小田治久、関宗祐に迎えられ、桜川村の神宮寺城に入るが、あの、源義家の弟、源義光の子孫である佐竹氏に追撃され、東町の阿波埼城を経由し、霞ヶ浦を舟で移動し、つくば市の小田城に逃れる。その後、親房は関城の戦いで敗戦し吉野に逃れた。

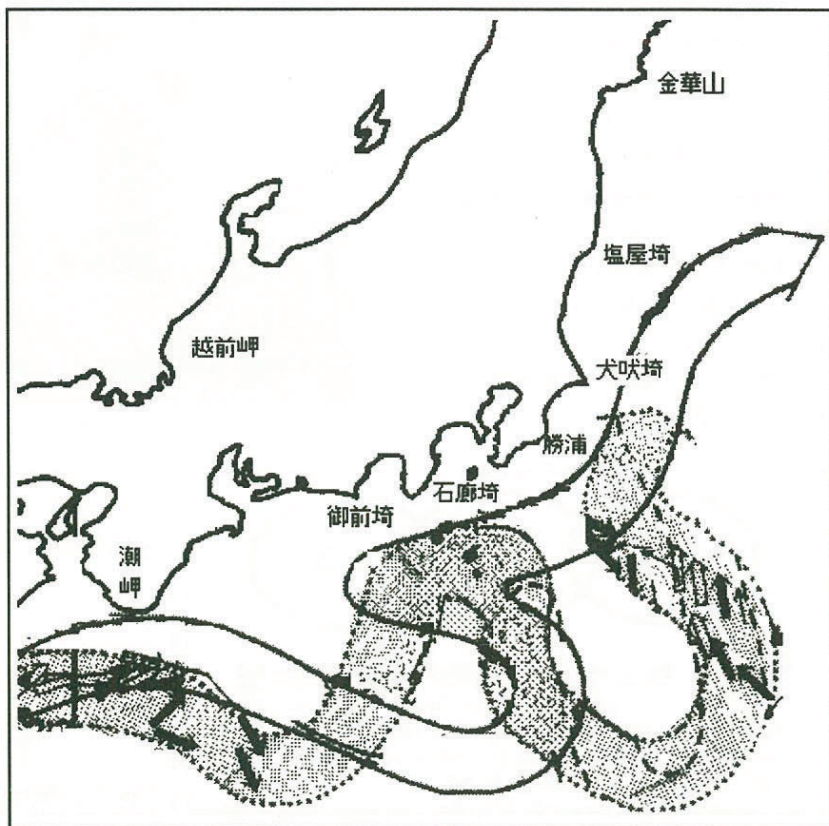
これら伝説やら歴史から、個人の移動はともあれ、大和の民族が公（おおやけ）の移動なり軍行の方法として、伊勢や熊野から、海路にて東国、奥州へ向かう「海道」が成り立っていたようであるから、この道はどうしても「東海道」と呼ばざるを得ない。

るを得ない。

当時、内陸を歩行し河川敷きや山中を通過すると恙虫（つつがむし）により、リケッチアの媒介を受け、恙虫病で死亡する者が多かった。したがって、軍行なり逃避中の恙虫病は、ぜったいに避けなければならないことから、東国へは暴風に遭遇しないかぎり東海道が安全だったはずである。いや、まだある。

日本貝学会の西脇三郎先生は、汽水域に生息する巻貝の一種であるイシマキ貝の分布に関する研究をなされ、土浦と銚子沖を頻繁に往復する私に、そのイシマキ貝が佐原や小見川に生息した記録があるから、貝を探して欲しいと依頼された。「その貝は幼生が黒潮に乗り分布を広げ、その関係で北限が利根川にある」という仮説を証明するためだと言うことなのである。貝の幼生は微細な生物であるから、なるほど、黒潮に乗り河川の流入を感じしながら生態分布を広げることは、誰もが納得する説であると感じる。

黒潮の日本沿岸の接近地点は四国の足摺岬と室戸岬。本州では、紀伊半島突端の古道である、古座街道、熊野街道の分岐地点である周参見（すさみ）から潮野岬沿岸で、まさに本土直撃に近い流れにあ



平成 11 年 2 月初旬から中旬の本州沿岸の黒潮

る。次に伊豆半島に接近するが、直撃は稀れであり、伊豆諸島を迂回したり、直進して東方に流れたり、実に複雑である。だが、どのように蛇行しても不思議なことに黒潮は、房総半島突端の野島崎、勝浦から大原に向かい、銚子の沖合いで東

に右折して日本から離れてしまう。流速は2～3ノットであるから時速約5 Km前後であり、その水温は、夏、陸が35度に気温が上昇しても、海面が25度を越えることは稀で、逆に冬に陸が氷点下であっても、銚子沖の黒潮本流が20度を下

ることも少ない。汽水域に生きるイシマキ貝の幼生の生存に適した水温は、大和の民族にとっても、東国、奥州を目指す場合には、夏は冷房、冬は暖房効果のある黒潮の流れは有り難い。

(次号に続く)

自然観察会

フナの「のっこみ」をみる

桜井裕子（つくば市）

去る4月17日、土浦市境川河口付近でフナの「のっこみ」観察会が行われました。私は「常陽リビング」でこのことを知り、とても楽しみにし



ギンブナを観察する参加者

ていました。そしてその日は、主人と子供も連れて参加しました。

午前9時に境橋のあたりに行くと、土曜ということで川の兩岸には釣り人たちが、びっしりと立ち並んでいて驚きました。「のっこみ」というのは、春になり気温が暖かくなってくると、冬の間、湖や河の深場にいたコイやフナなどが、産卵のために水温の高い岸辺や用水路などのぼってきて、アシや他の水草などの茎に卵を産むことをいうそうです。当日は晴れて風が少しありましたが、穏やかで、いい観察日和でした。境橋から石田の集落の方へ、他の参加者約10名の方たちと歩いていくと、ハス田の中では、水しぶきを上げて、魚たちがバシャバシャしていました。案内の鈴木さんの説明によ

れば、湖から上がってきたフナたちが、用水路を伝わりハス田の中に入り込むということでした。用水路の中には産卵のため、力つきたフナたちが死んでいるのも見うけられました。用水路のへりに生えている水草の茎には、卵がびっしりと付いていました。

その後、湖岸に近い水路のところで、沼澤さんが投網を打つと、卵をいっぱい抱えたマブナ（ギンブナ）、キンブナ、20cmもありそうなヘラブナ、クチボソ、タイリクバラタナゴ、ヒガイなどいろいろな魚が入っていました。「のっこみ」と

いう言葉は知っていても実際には目にすることがなかった私ですが、主人、子供とともに、初めて見せていただいて、とても感動しました。これからも、こういった観察会などをたくさん行って、私たちにも自然ということはどういうことかを、教えていただきたいと思います。

「メダカの学校」は川の中

湯川静子（つくば市）

4月25日、朝から雨だった。私は主人に土浦の集合場所まで、送ってもらった。待ってる間寒かった。でも本当に旧桜川にメダカがいるなんて信じられない。それを確かめるためにも、寒さなんて我慢しよう。土浦駅東口に集合した参加者は約10名。

雨だったので車に分乗して、さあ出発。旧桜川は、昔桜川が三角州であった名残の川だそうだ。見れば川の色は不透明なグリーンで、夏にはヘドロの川になるのではないかなと思うほどだった。雨が水面をたたくので、メダカの姿は見えない。講師が投網を打った。投網を打つ前に「自転車が沈んでいることがあるので、それに投網がひっかかると、網が上がらなくなるかも」と言っていたら、その通りになった。講師は胸まであるゴム長をはいてすぐ水に入って網をはずした。それで1回目の投網は空振り。

2回目は、30cmくらいの見事なコイがかかったが、残念ながら取り逃がした。でも、たくさんのメダカ、クチボソ、ギンブナがかかり、参加者がみんな、かわいいメダカをそおと網からはずして、小さな容器に入れた。雨が降って寒いのに、夢中になり、子どもだった頃が思い出された。講師が、「昔は和手拭いで取ったり、女の子はスカートですくったりしたものだ」と話されると、皆、懐かしそうに笑った。3回目の投網には、やはりメダカが多くかかり、ギンブナとヘラブナも入った。ヘラブナは手に乗せてもおとなしく、ギンブナはウロコの銀色がきれいだった。

私が子どもの頃、皆でメダカやその他の魚を取りに行った記憶が少しずつ思い出された。いま、故郷の川はどうなっているのかなあと考えた。水がきれいとは言えない旧桜川に、本当にメダカが生息していることが不思議だった。川の水が浄化され、ほんの少しよくなっているのかも。



登録研究員制度スタート

(社)霞ヶ浦市民協会は、調査研究、情報収集・発信などの事業を総合的かつ効果的に推進するために、このほど登録研究員制度を発足させました。登録研究員は、理事および事務局長の推薦を受けて理事長が選任するもので、任期は2年です。今回は、最初の登録研究員として、次の5名の方が選任されました。大嶋和雄(茨城大学教育学部)、黒田久雄(茨城大学農学部)、高村義親(茨城大学農学部)、中島紀一(鯉淵学園)、野口淳夫(筑波大学医学専門学群)敬称略。

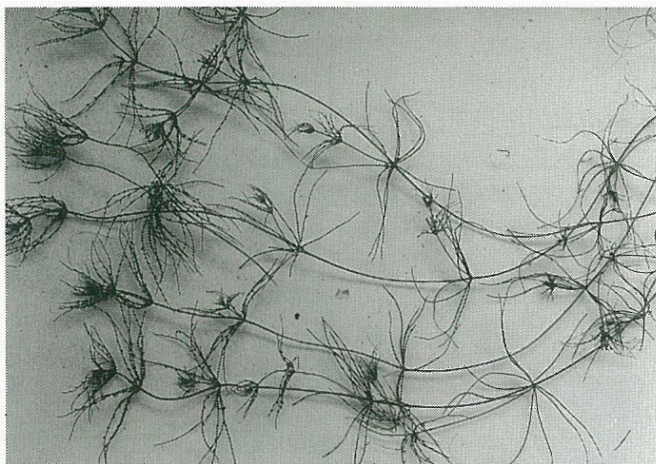
今後、登録研究員の方々には、

- 1) 泳げる霞ヶ浦長期総合計画の策定に関する調査研究
- 2) 啓発事業及び各種講演会、セミナー等の講師、アドバイザー
- 3) その他、情報収集、霞ヶ浦浄化、環境保全に関する調査研究を随時実施していただくことになっています。

シャジクモ再発見

本紙4巻3号で、「霞ヶ浦のシャジクモ絶滅か」という記事が載りました。実際に霞ヶ浦では、20年以上もシャジクモは確認されていませんでした。しかし、今年4月18日に、霞ヶ浦市民協会主催で実施された「タナゴ調査」のうちに、シャジクモが再発見されました。その場所は残念ながら霞ヶ浦本体ではなく、数年前に建設省霞ヶ浦工事事務所が、麻生町天王崎(かつての遊泳場)に設置した「紫外線浄化施設」で浄化した湖水を導いた砂浜のプールです。このプー

ルは夏期には子どもの遊泳場になっていますが、秋から冬にかけては水遊びする人がほとんどいないために、透明度がよく、沈水植物が繁茂する条件がそろっていたようです。今回はシャジクモだけでなく、エビモやコカナダモの生育も確認されました。発見されたシャジクモは、国立環境研究所の



渡辺信さんらの研究グループによって *Chara brauni* (和名 シャジクモ) と同定されました。建設省霞ヶ浦工事事務所では、今後プールの一部を囲って保護するとともに、説明板を立てて利用者の理解を求める一方、石岡市高浜の山王川河口の植生浄化施設にも移植するということです。

ダイオキシン汚染土壌 分析と無害化処理

各地でダイオキシン汚染が問題となっていますが、県はこのほど無害化処理と分析に取り組み、分析は専用の施設が県公害技術センター内に完成しました。これまで民間に頼っていた分析が、自前のため早くできるようになり、緊急の場合に大変役立つようになりました。この施設は全国で7番目、設備費約1億8千万円です。

今年度は、県内34地点の大気、土壌、水質、底質等のほか、民間の産廃焼却施設8か所の排ガスなど計100検体分析する予定です。

無害化処理については、県は鹿嶋市の住友金属鹿島製鉄所と共同研究事業で実証試験に取り組む方針を明らかにしました。

この実証試験は、ゴミ焼却場のダイオキシンで汚染された土壌、焼却灰、汚泥を、1500度以上の高温で処理して無害化するもので、スラグは道路の舗装などに利用で

きるといいます。県内で稼働中の8か所のダイオキシン類に汚染されたゴミ焼却場施設敷地内から埋め立て焼却灰や土壌、汚泥37tを採取して実験し、利用可能かどうかの結論を出す予定です。いずれ

にしても、ダイオキシン対策については早急な解決が望まれます。

自然エネルギー買い取りへ

二酸化炭素を排出しないクリーンエネルギーとして、太陽光発電、風力発電が各国で推進されてきています。普及をめざす欧州では約10カ国が自然エネルギーの電力買い取りのための法律を制定しています。

日本でも太陽光、風力などの自然エネルギーで発電した電力の買い取りを電力会社に義務づけようと国内のNPO(非営利組織)が全国的なネットワークを発足させました。すでに太陽光と風力発電に限り、電気料金と同じ価格で電力10社が買い取りを始めていますが、発電コストが高く、規模が小さいと施設費用の回収が難しくなります。そこで、自然エネルギーを普及させるために、現在より高い価格で数十年買い取ることを義務づける「自然エネルギー促進法」の立法化をめざしています。

ドイツでは91年から「自然エネルギー優遇買い取り法」という法律でバックアップしてきました。その結果、風力発電については、90年と比べて現在は50倍以上の発電能力になりました。ドイツと比べると、日本は98年末に約100基・最大発電容量約3万kwでドイツの約90分の1で、世界的に見ても日本は第12位です。



K-NETダイジェスト

1999年3月

本欄では霞ヶ浦に関する新聞記事の見出しを中心に、ダイジェストを収録しています。

収集紙、M:毎日、J:常陽、A:朝日、Y:読売

1日 穴塚の自然と歴史の会が「穴塚米」を作り全国に発送、穴塚大池谷津田オーナー制度始動へ、土浦でシンポジウム「田んぼ塾」も発足(J、2日Y)

2日 キャッツ・アグリシステムズ農業センター「生物農薬」を生産、取手に国内初の本格工場(受粉昆虫や天敵昆虫)(J)

3日 オオヒシクイ保護仮処分第1回審尋県が和解を拒否(Y、M、A)

5日 霞ヶ浦導水那珂導水路水戸トンネル地下水の異常高圧か、鋼管65mつぶれる(J、A、Y、6日M) 取手市で木炭や自然の植生活用の「取手方式」スタートへ、相野谷川生活排水を浄化(J)

7日 霞ヶ浦市民協会で「ふるさとの河川検証」市民参加実施の水質調査結果発表会3市町村で連続シンポ(J) 城取清掃工場周辺の井戸水重金属、基準値の20倍、住民調査「行政、早急に対策を」(M、A、J、Y)「霞ヶ浦みどりの募金」県民の希望を実現、霞ヶ浦、潮来などできょう植樹(J、8日J)

8日 上流部で水質汚染、霞ヶ浦流入4河川地域住民が調査、牛久で報告会、霞ヶ浦市民協会(J)

9日 遊泳場再生目指せ、霞ヶ浦市民の

4月観測結果

湖岸からの観測でもあるので透明度が30cm～40cmと大変に低かった。透明度

を下けているのは、ハリケイソウ(*Synedra* sp)で1mlあたり2万個の密度であった。これに続いて糸状藍藻類のオシラトリアが優占種となっている

湖岸からの採水及び観測

項目	土浦港	沖 宿	木原沖	湖 心	麻生沖
水温	16.2	16.3	15.9	15.8	16.2
pH					
電気伝導度					
透明度cm	40	42	40	32	35
溶解酸素濃度	10.2	8.5	8.9	9.2	10.0
COD	9.7	8.9	8.2	9.3	8.8
D-COD					
NH ₄ -N	0.28	0.19	0.17	0.29	0.15
NO ₂ -N	0.05	0.03	0.03	0.04	0.02
NO ₃ -N	0.31	0.23	0.21	0.29	0.21
PO ₄ -P	0.04	0.03	0.07	0.04	0.05
塩素イオン	38.2	37.4	33.6	39.0	40.0
SiO ₂					
<i>Melosira</i>	1140	540	600	1560	1080
<i>Cyclotella</i>	120	180	450	240	120
<i>Synedra</i>	7800	14520	6060	17820	4520
その他の珪藻	120	180	60	240	360
珪藻類計	9180	15420	7170	19860	6180
<i>Phormidium</i>	540	660	720	560	720
<i>Oscillatoria</i>	2640	2700	2280	1800	1980
藍藻類計	12360	18780	10170	22220	15060
緑藻類	420	480	420	660	540
原生動物	3240	3180	3540	960	1080

単位:mg/l プラクトン群数又は個体数/ml

目で調査、20日に「水辺の交流会」湖岸11か所回り整備可能か検討、霞ヶ浦市民協会(Y、14日J、17日M)第2回ヒシクイ審尋「越冬終わり意味ない」と仮処分申請を取り下げ(M、Y、A)

10日 堆積ダイオキシン濃度、霞ヶ浦湖底を調査、環境庁(J、A、Y)建設省水戸トンネル変形対策調査委設置(Y)

11日 霞ヶ浦の模型完成、湖流の変化も再現、丘陵部、湖底の深さ忠実に再現霞ヶ浦インフォメーションセンターで公開(J、13日Y)

13日 霞ヶ浦市民協会が土浦の新川で実験、花壇で水質浄化(J)

20日 14校60人が参加、土浦で「高校生

環境セミナー」水質調査水の汚れを実感(M、24日Y)

21日 八郷-真壁結ぶ上曾トンネル計画自然環境調査ほぼ終了、用地一部買収へ「昭和30年代からの悲願」(J)

24日 小池城址公園周辺、住民主体の新方式「里山」復元ヘスクラム、県、阿見町、民間団体町有林4ヘクタールを整備(Y、M)「大きくなって戻ってね」サケの稚魚を桂川へ放流、桂村立岩船小(A)

31日 一級河川雄コイのメス化進む?環境ホルモン調査1/4から指標物質(Y)(ダイオキシン関連Y:16、17、M:17、18、19、J:17、18、19、A:16、17、18、19)

お知らせ

オオヨシキリ・なわばり観察会

霞ヶ浦の代表的な夏鳥、オオヨシキリのオスは、「ギョギョシ、ギョギョシ」と鳴いて、なわばりを宣言します。なわばりは、どんなところに作られるのでしょうか。なわばり観察に最適な、土浦市の石田湖岸で調べてみましょう。なわばりの調査方法についても学びます。

日時：平成11年6月6日（日）

午前9時～11時

小雨決行

集合：土浦市湖北の下水処理場裏の境橋（境川河口）

持ち物：あれば双眼鏡、ゴム長

主催：霞ヶ浦市民協会

第5回霞ヶ浦一周サイクリング大会

日時：平成11年6月13日（日）雨天決行

会場：霞ヶ浦総合公園

主催：日本サイクリング協会

主管：茨城県サイクリング協会

コース

1) 霞ヶ浦一周コース（約90km）

2) 霞ヶ浦一周フリーラン（約90km）

3) 散策コース（約40km）

問い合わせ：茨城県サイクリング協会

TEL&FAX:029-282-0039

霞ヶ浦

バスフィッシングトーナメントin土浦

日時：平成11年6月13日（日）

開催場所：霞ヶ浦総合公園内（国民宿舎水郷及び付近湖岸）

参加資格：つりの好きな老若男女

同時開催イベント：ゴミ拾いゲーム、霞ヶ浦写真展など

参加費用：1500円

主催・問い合わせ：(社)土浦青年会議所

TEL:0298-22-3426

第7回全国水環境シンポジウム
& 交流会 in Tokyo

テーマ：21世紀水環境の扉

ー川から地域へー

日程：平成11年6月19日(土)午後1時～
6月20日（日）正午

場所：国立オリンピック記念青少年センター国際交流棟

内容：分科会（テーマ：河川管理におけるパートナーシップ、川並み保全、水系の生物多様性保全、NPOと市民事業、21世紀の連携交流）、地域活動報告、川と水をめぐる省庁関係者討論会など
資料代：1000円

主催：全国水環境交流会（地域交流センター）
TEL:03-3581-2700

アサザプロジェクト

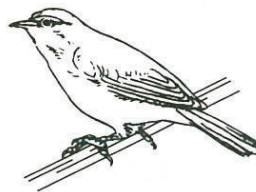
C.W. ニコル氏記念講演会

日時：平成11年6月25日(金) 午後7時

会場：土浦市民会館大ホール

参加費：無 料

主催：アサザプロジェクト推進実行委員会、霞ヶ浦をよくする市民連絡会議
TEL:0298-73-5160



「アユ祭り」が開催されます

清流に住むアユは、普通、秋に川で生まれて海に下り、春になると再び河川に遡上してきます。ところが、霞ヶ浦北浦のアユは、流入河川で生まれ、海に下ることなく霞ヶ浦北浦で一生を全うするという珍しい生態を獲得して霞ヶ浦北浦に定着しました。この記念すべき現象を紹介するとともに、おいしいアユを味わってもらおうとアユ祭りが開催されます。

日時：6月26日（土）～27日（日）

場所：霞ヶ浦ふれあいランド（玉造町甲1324）TEL 0299-5-3927

主催：霞ヶ浦ふれあいランド

協力：玉造漁業協同組合

内容：アユの塩焼き試食、アユのすくいどり、霞ヶ浦のアユの生態の紹介

事務局日誌

1999年4月

- 3日 霞ヶ浦インフォメーションセンター打合せ
- 5日 県霞ヶ浦対策課打合せ／会報編集委員会／泳げる霞ヶ浦市民フェスティバル準備会
- 12日 業者選定委員会／決算打合せ(池田会計事務所)
- 13日 三役会
- 17日 フナのっこみ観察会／霞ヶ浦マップバスツアー
- 18日 タナゴ調査
- 20日 第8回世界湖沼会議NGO打合せ S.E.ヨルゲンセン教授(県霞ヶ浦対策課)
- 22日 泳げる霞ヶ浦市民フェスティバル第1回実行委員会
- 25日 メダカの学校観察会
- 26日 第1回理事会
- 27日 流域管理委員会(サンレイク)

【新入会員】(敬称略)

法人会員 ㈱藤代範雄デザイン事務所
個人会員 伊瀬山富美子 伊藤 亨
津久田 博行 大塚 和子

[4月の水質]

観測地点：土浦港地先

日	水温 ℃	透明度 cm	酸素量 mg/L
3	11.8	52	11.5
5	13.8	50	10.5
6	13.6	55	10.8
7	15.1	50	13.1
8	13.8	50	11.9
12	14.0	55	10.6
13	15.1	50	9.8
14	15.8	55	11.0
16	16.7	54	11.0
21	17.6	60	10.6
26	16.9	45	8.9
27	17.6	55	8.2
28	19.6	62	11.2
30	19.4	55	10.6

「霞ヶ浦 NEWS」

Vol.4 No.5



会員募集中！ 個人会員：1口3,000円 法人会員・団体会員：各1口10,000円

発行日：1999年5月31日

発行所：(社)霞ヶ浦市民協会 〒300-0033 茨城県土浦市川口2-13-6

発行人：堀越 昭

編集人：高木純子

印刷所：(株)柳沢印刷所

編集スタッフ：沼沢 篤・今泉文彦・鹿志村啓子